

今週の為替相場見通し(2023年1月30日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		129.02 ~ 131.12	129.80	127.50 ~ 132.00
ユーロ	(ドル)		1.0836 ~ 1.0929	1.0868	1.0700 ~ 1.1000
(1ユーロ=)	(円)		140.50 ~ 142.28	141.14	139.00 ~ 144.00
英ポンド	(ドル)		1.2264 ~ 1.2447	1.2399	1.2150 ~ 1.2500
(1英ポンド=)	(円)	*	159.51 ~ 161.82	160.90	158.00 ~ 162.00
豪ドル	(ドル)		0.6960 ~ 0.7142	0.7110	0.6960 ~ 0.7250
(1豪ドル=)	(円)	*	90.08 ~ 92.82	92.32	91.40 ~ 93.40

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第一チーム 原田 和忠

(1)今週の予想レンジ: 127.50 ~ 132.00 円

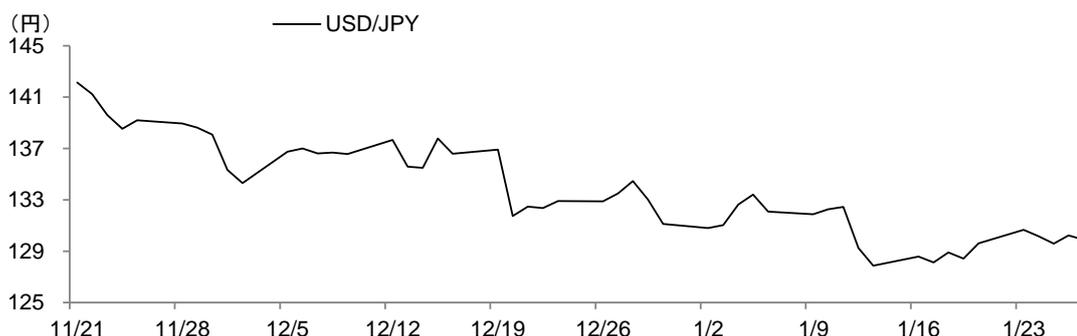
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は、130円を挟んだ値動きが続いた。週初23日、129.36円でオープンしたドル/円は、ドル売り相場の中、129円台前半へ下落も、共通担保オペにおける堅調な応札結果を受け円金利低下とともに130円台を回復。海外時間は材料難の中、米金利上昇を受け130円台後半まで上昇した。24日、ドル/円は依然日銀に対する政策修正期待が燦る中、円買い相場を受け130円を割り込んだ。海外時間は、米1月製造業/サービス業PMI(速報)が堅調な結果となり、米金利上昇を受け一時週高値となる131.12円に上昇。ただし、その後は米金利の反転を受け130円付近に下落した。25日、ドル/円は米金利上昇を受け130円台半ばへ上昇。海外時間は、カナダ中銀が次回会合での利上げ停止を示唆したことや、堅調な米国債入札結果を受けた米金利低下に呼応し129円台半ばに下落した。26日、ドル/円はドル売り相場の中、一時週安値となる129.02円に下落。海外時間は、米10~12月期GDP(速報)の良好な結果を受け、米金利上昇とともに130円台半ばに上昇。27日は、東京1月消費者物価指数の約41年ぶりとなる強い結果が発表され、日銀が金融緩和政策を縮小するとの見方が強まったことで下落する場面も見られた。その後は、次週に控える経済指標の発表や中央銀行イベントをにらみ小動きとなり、129.80円で越週した。

今週のドル/円相場は軟調推移を予想。足許、米国におけるインフレはピークアウトを示すような結果が続いていることを受けて、今週のFOMCにおける利上げは+25bpと利上げスピードの減速が織り込まれている。ブラックアウト前には、いわゆるタカ派と言われているFRB理事の+25bp支持の発言もあり、今次会合においては概ねサプライズはないだろう。米国の経済指標についても、ISM製造業景気指数は昨年11月に節目の50割れ。ISM非製造業景気指数も年末に50割れとなった。PMIに至っては昨年半ばから50を下回る水準が続いている。ハードデータの住宅販売件数や小売売上高なども減速しており、雇用以外の指標は減速が明確となってきた。係る状況下、昨年スピード感をもって上げてきた政策金利も、今年はより慎重に実体経済を見ながら上げざるを得ないだろう。よって、ドル/円は徐々に下値を切り下げる展開を予想する。なお、今週は31日(火)に米1月コンファレンスボード消費者信頼感、2月1日(水)に米1月ADP雇用統計、米1月ISM製造業景気指数、2日(木)早朝にFOMCの発表を控える他、BOE金融政策委員会やECB政策理事会の結果が発表される。3日(金)には、米1月雇用統計、米ISM非製造業景気指数の発表が予定されている。

(3)先週までの相場の推移

先週(1/23~1/27)の値動き: 安値 129.02 円 高値 131.12 円 終値 129.80 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

(1) 今週の予想レンジ: 1.0700 ~ 1.1000 139.00 ~ 144.00 円

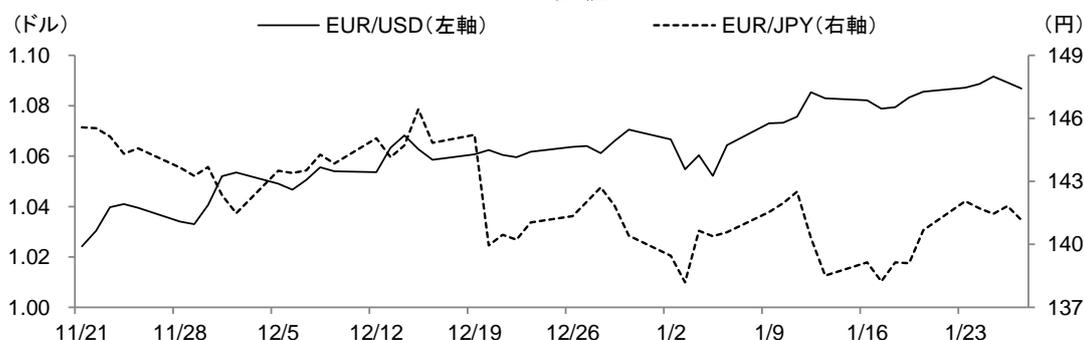
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は1.08台半ばから1.09台前半での方向感に乏しい展開。週初23日、前週からのECB高官によるタカ派発言が引き続き確認される中で、ユーロ買いが強まり1.09台前半まで上昇。一巡後は24日にかけて1.08台前半まで軟化も米金利低下を受け1.08台後半に小反発。25日以降は米金利の低下基調を受けたドル売り地合いからユーロ/ドルはしっかりとした推移が続き、26日にかけて週高値の1.0929まで上昇。その後は次週にFOMC会合、ECB政策理事会を控える中で次第に動意の乏しい展開となる中、1.08台半ばから後半を中心とした推移が続いた。27日も前日と同水準での小動きが続き、1.08台半ばで越週した。

今週のユーロ/ドル相場はECB次第の推移となる見通しだが、相場的には小確りとした展開を予想する。今週は1/31(火)~2/1(水)にFOMC、ならびに2/2(木)にECB政策理事会が開催される。FOMCの過去並びに今回の見通しの詳細は本資料の米ドル相場欄に譲るが、前回会合以降のFRB高官の発言においても利上げペース鈍化が示唆されており、+25bpの利上げがコンセンサス。サプライズがあるとすれば、将来の利上げ見通しへの言及であるが、現状のデータ次第という姿勢を転換する大義名分も見当たらない中で、発表直後に多少相場が振れる可能性はあるが、トレンド形成に至る材料は出てこないと考えている。ECBに関しては2会合連続で+75bp利上げをした後、前回会合で利上げ幅を+50bpに減速された。前回のECBにおいて議事要旨で当初+75bp利上げ支持がかなりあったことが明らかになった一方、+50bpの利上げを今後複数回行うというメッセージとともに利上げ減速を受け入れたということも確認されている。欧州においてインフレ率のピークアウトが確認されている状況ではあるが、依然予断を許さない高い水準のインフレが確認されているのも事実で、直近のECB高官における発言を確認すると+50bpの利上げを市場に織り込ませる動きが多く見られている。それらを踏まえると、ECB政策理事会においてはサプライズなく+50bpの利上げが行われ、今後利上げに関してもファイティングポーズを堅持する公算が大きいのではないかと考えている。FOMCとECBのそれぞれについて記載を行ったが、現状でいえばECBに利上げ余地が大きい印象。欧米諸国によるウクライナへの戦車供給を受けたウクライナ情勢の悪化懸念等も再びくすぶっている状況ではあるが、軍事衝突が起きてもうじき1年が経過し、相場感応度は低い状況。どちらかと言えばユーロが選好されやすい状況となるのではないかと。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(1/23~1/27)の値動き: (対ドル) 安値 1.0836 高値 1.0929 終値 1.0868
(対円) 安値 140.50 高値 142.28 終値 141.14



(資料)ブルームバーグ

3. 英ポンド

(1) 今週の予想レンジ: 1.2150 ~ 1.2500 158.00 ~ 162.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、上下するも対ドルでは小幅下落、対円ではほぼ横這いで推移。週初23日、対ドルで1.24台前半、対円では週安値付近となる160円半ばでオープン。春節の影響でアジアからの引き合いが限られていることや、主要な経済指標の発表が予定されていないことから方向感に乏しく上下する展開であったものの、米金利の上昇を受けたドル高により英ポンドは対ドルで1.23台後半まで下落。対円ではドル/円の上昇に連れて161円台半ばまで上昇。24日、ロンドン時間朝方に発表された英1月PMI(速報)が市場予想を下振れたことが嫌気され英ポンド安が加速。一時対ドルで1.2264まで下落。対円でも160円付近まで下落したものの徐々に買戻しの動きが入り、160円半ばまで戻す展開に。25日、カナダ中銀の政策決定会合を受け、FRBも近い将来に利上げを休止するとの憶測が台頭。ドル安の流れを受け、英ポンドも1.24台前半まで上昇。対円では一時160円を割れるも、この水準では買戻しの動きが活発化し、結局160円台半ばまで戻す展開に。26日、特段の材料はないものの昨日までの上昇を巻き戻す形で英ポンドは対ドルでじりじりと下落。しかし、米国時間朝方に発表された米10~12月期GDP(速報)や米新規失業保険申請数が市場予想対比で底堅いものであったことからドル買いの流れが再燃。英ポンドは対ドルで朝方の下落分を取り戻し1.24台前半での推移に。対円では日銀の政策修正期待を背景とした円金利上昇を背景とした円安を受け、日中を通じて英ポンド高基調で推移し161円台後半まで上昇した。27日、日銀による共通担保資金供給オペ実施通知を受けた円高の流れをロンドン時間も引き継ぎ、英ポンドは対円で160円台半ばまで下落。対ドルでも米金利上昇を背景としたドル高により1.23台半ばまで下落するも、米国時間に発表された米1月ミシガン大学消費者マインド(確報)でインフレ期待が市場予想を若干下振れたことなどが材料となり、英ポンドの買戻しの動きが広まり1.23台後半まで上昇。対円でも160円台後半まで戻して週末を迎えた。

今週の英ポンド相場はボラティリティの高い展開ながらも下落方向での推移を予想。来週は英・米・欧の政策決定会合や主要経済指標といった重要イベントが複数予定されており、週を通じてボラティリティの高い展開が予想される。市場の注目は各中銀が今会合で実施する利上げ幅から利上げの終了時期や水準に移っており、声明発表後の記者会見の内容や会合後の中銀関係者の発言をこれまで以上に注視している。足許、英国のインフレ率は高止まりが続いているものの、労働市場で転換の兆しが見え始めたとの見方もあり、今次会合においてBOEが政策ガイダンスの修正を行うと予想されている。米・欧対比で早期に金融引き締めを実施してきたBOEが最も踏み込んだ政策スタンスの修正を行うと考えられるため、英ポンドにも下落圧力が加わりやすく、来週は対ドル、対円で英ポンドは下落する展開を予想する。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(1/23~1/27)の値動き: (対ドル) 安値 1.2264 高値 1.2447 終値 1.2399
(対円) 安値 159.51 高値 161.82 終値 160.90



(資料)ブルームバーグ

4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 川口 志保

(1) 今週の予想レンジ: 0.6960 ~ 0.7250 91.40 ~ 93.40 円

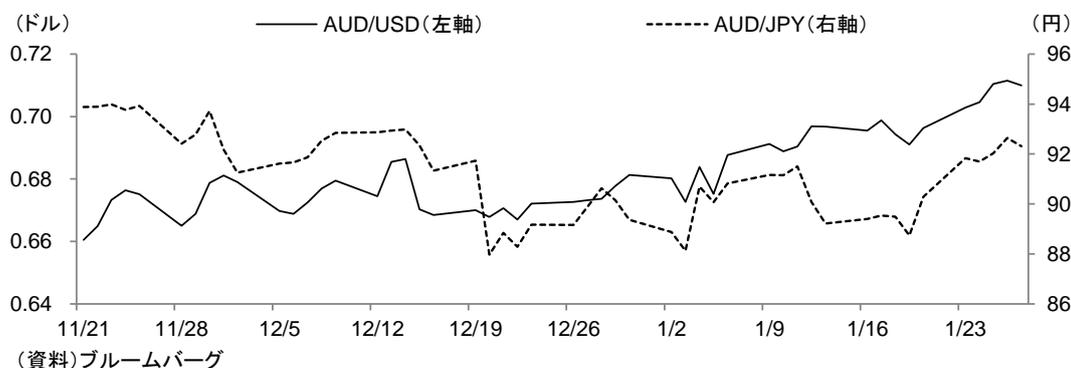
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は0.69台半ばでスタートし、週中に発表された豪10～12月期消費者物価指数(CPI)が高水準となった事をきっかけに豪ドルは0.71台前半まで上値を伸ばす展開となった。週初23日は0.6983でスタート後、豪10～12月期CPIが+8%に達しないままでピークアウトした可能性があるとの思惑を背景に、RBAによる金融引き締めが終盤に向かっていと意識され、豪株が上昇すると0.70へ向けて上昇。FRBの積極的な利上げに対する懸念が後退した事でハイテク株中心に米株に買戻しが広がり、リスクオンの流れから一時0.7040まで上昇した。24日はNYオープンで多数の大型株が一時急落し、取引停止となった事でリスクオフ的な米ドル買いとなり、豪ドルは下落に転じた。加えて米1月PMI(速報)は製造業/サービス業ともに50を下回るも、予想・前回値を上回った事でFRBによる利上げが続く中でも活動指数が上昇をしたことが材料視され、ソフトランディングへの期待から米ドル買いの流れをサポートし0.70台を一時的に割った。しかし、その後米1月リッチモンド連銀製造業指数がマイナス圏となった事で米ドルは売り戻しとなり豪ドルは0.7058まで緩やかに上昇した。25日、豪10～12月期CPIが+8%に達していなかったものの、33年ぶり高水準の+7.8%を記録した事で、RBAによる利上げが継続するとの見方が強まり、0.71台前半まで上昇した。26日は豪州休場、NY時間では米10～12月期個人消費(速報)の減速から、米ドル売りとなり0.7142まで上昇した。但し米10～12月期GDP(速報)と米12月耐久財受注(速報)が予想を上回り、加えて米新規失業保険申請件数が予想を下回った事で米ドル買いとなり、一時0.7080まで下落した。NY引けはやや戻して0.7115となった。27日はFRBがインフレ動向を測る上で重要視している米12月個人消費支出(PCE)コアデフレーターが前年比で一段と鈍化し、米12月個人所得支出も減少をみせた。米1月ミシガン大学消費者マインド(確報)でインフレ期待が市場予想を若干下振れ、FRBが利上げペースを更に減速させるとの期待から豪ドルを支える場面もあったが、大きな材料に乏しい中、一日を通しては0.71を挟んでの振幅となった。

今週の豪ドル相場は、底堅い推移を予想する。今週の主な経済指標は31日(火)に豪12月小売売上高、1日(水)にNZ10～12月期雇用統計、米1月ADP雇用統計、FOMC政策発表、3日に米1月雇用統計等の発表が予定されている。直近の米経済指標でインフレ鈍化の兆しがみられることから足許では米株が押し上げられており、またPCEコアデフレーター鈍化からもFRBによる利上げ減速の可能性が高いとみられている事から豪ドルは今週も引き続き支えられるとみる。米雇用統計は、1月に複数の米企業で大規模レイオフがあった事を考慮すると失業率の悪化が懸念されるものの、直近の新規失業保険申請件数は予想外の減少を見せている事から、雇用の力強さを期待する声も少なくない。しかし雇用者数が予想を上回った場合でも、平均時給が鈍化した場合はリセッション入りの可能性を排除しつつ、FRBの利上げペースを更に減速させる余地を与える事から、米ドル安の流れを予想する。この場合、豪ドルは0.71台後半もしくは0.72台へ上値を伸ばす可能性が出てくるとみる。先ずはこの先の米金融政策軌道を描く上での足掛かりとなるFOMCと米雇用統計結果を待ちたい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(1/23～1/27)の値動き: (対ドル) 安値 0.6960 高値 0.7142 終値 0.7110
(対円) 安値 90.08 高値 92.82 終値 92.32



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。